

被災地支援

昼イカ漁に支援金



独自に高い鮮度のイカを出荷している久慈市漁協に、食を通じての被災地支援プロジェクトを行っている大手食品メーカー「味の素」が寄付金900万円を贈りました。スルメイカ漁は通常夜間に行われますが、大陸棚の広い久慈沿岸では昼の漁が可能です。「昼イカ」として、半日早く鮮度が高いまま首都圏に出荷することができます。しかし消費者にあまり知られていないのが現状で、久慈漁協では「この支援でPR運動を行っていく」と感謝していました。(1/14 ニュースエコー)

大槌発

だあすこ大槌店

震災津波で全壊した後、大槌町内の仮の建物で業務を続けてきたJAいわて花巻の大槌支店がオープンしました。「大槌町沿岸営農拠点センター」としてオープンした新施設は、鉄骨造り2階建てで、沿岸で初の出店となる直営の産地直売所『母ちゃんハウスだあすこ』が併設されています。直売所には野菜や果物に加え、海産物の加工品など地元の産物が豊富に並び、11時の開店と同時に大勢の買い物客が訪れ、レジの前に長い行列が出来るほど賑わっていました。

(1/15 ニュースエコー)



普代発

ふだいまると元気市



普代村では商店街活性化と復興を目指し、恒例となった「ふだいまると元気市」が開かれました。村中心部の国道を歩行者天国にし、25の店が軒を連ねました。生鮮食料品などを市価より大幅に安く買えるとあって大勢の買い物客で賑わいました。元気市は年2回開催されていますが、実行委員会では普代の名物となるよう継続していきたいと話していました。(1/17 ニュース)



陸前高田発

さんりく元気ラジオ!

(ワイドステーション内 毎週水曜日放送)

今週は、陸前高田災害FMの大久保暢子さんが、陸前高田市でボランティアを続けている「青木だいごさん(26歳)」について伝えてくれました。青木さんは福井県出身で、2011年4月に陸前高田市を訪れてボランティアを始めました。現在の活動は漁業や農業、高田松原の苗の育成等々、多岐にわたります。青木さんは「震災直後はがれきの撤去等が中心、今は住民に寄り添った支援に移行している。ボランティアは、実は自分のためにもなっているし、知り合った人達とさらに親しくなりたい。」と話しているとのこと。(1/20)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIB公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122